

「北方領土の日」廃止！ アイヌ民族連帯！関西集会

アイヌ民族の先住権・自決権を実現しよう！ 遺骨をコタンに返せ！
植民地主義・帝国主義学問に貫かれた北大・東大「150年」弾劾！

2026年

2月8日(日)

午後1時半から5時

PLP会館 4階会議室

(JR天満駅、地下鉄扇町駅・徒歩5分)

参加費 1000円(困難な方は受付に)

基調報告 ピリカ全国実・関西



講演 **アイヌとパレスチナをつなぐ自決権の闘い
グローバルな植民地主義の歴史と現在進行形**

早尾貴紀さん(東京経済大学教員、社会思想史)

2002-04年ヘブライ大学客員研究員として東エルサレム在住、ヨルダン川西岸地区とガザ地区とイスラエルをフィールドワーク。著書：『パレスチナ、イスラエル、そして日本のわたしたち』(皓星社)、『残余の声を聴く——沖縄・韓国・パレスチナ』(共著、平凡社)など。訳書：ジョー・サッコ『ガザ 檻外の声を求めて』(Type Slowly)、ハミッド・ダバシ『イスラエル=アメリカの新植民地主義』(地平社)など

北大は2026年に、東大は27年に創設「150年」祝賀を計画しています。その150年こそ日本天皇制国家が植民地・領土拡張のための侵略戦争をおし進め、占領地域の民族・住民を民族差別・優生思想(「劣等」なものを淘汰する)のもとに虐殺し抑圧し皇民化した歴史です。人類学者たちは侵略とともに占領地域での遺骨略奪を繰り返し、その研究を通してアイヌ民族=「滅びゆく民族論」を拡散しました。いま政府と各大学はアイヌ民族や琉球民族の遺骨返還を開始していますが、帝国主義・植民地主義学問の反省・謝罪・賠償はありません。

イスラエルによるパレスチナ・ガザとヨルダン川西岸での入植者植民地主義による戦争、先住民族であるパレスチナ人民へのジェノサイド(集団虐殺)はアイヌ民族、琉球民族に対する同化・民族絶滅政策と同様の攻撃です。2月7日は政府が決めた「北方領土の日」です。わたしたちはアイヌモシリ侵略・併合とアイヌ民族の先住権・自決権を奪った歴史を肯定し領土ナショナリズムをあおる「北方領土の日」廃止を訴えてきました。今回は早尾さんをお迎えして入植者植民地主義批判を深めたいと思います。ぜひご参加ください。

主催「北方領土の日」反対！「アイヌ新法」実現！全国実行委員会・関西(ピリカ全国実・関西)

連絡先 労働者共闘 TelとFax 06-6304-8431

木村 敬 TelとFax 06-6706-2147

カンパのお願い

集会成功のため一口1000円以上のカンパをお願いします

郵便振替口座 00940-7-6595 ピリカ全国実・関西